

**中島**  
**二式水上戦闘機**童友社 1/100スケール零戦21型改造  
製作・文:政府開発援助

## 1. 二式水戦について

太平洋戦争緒戦で勝利を重ね急速に勢力を拡大した日本海軍であったが、軍用飛行場の整備が追い付かないことから、海面から離着水できる水上戦闘機を求める声が挙がり、良好な運動性を誇る零戦を母体とした水上戦闘機が急遽作られることとなった。零戦の開発メーカーである三菱に代わって水上機に経験の深い中島が改修を担当、昭和17年には正式に配備が始まっている。零戦譲りの運動性や小さな島でも運用できる使い勝手の良さから、偵察・哨戒に使用されることも多く、終戦までに300機余りが生産された。

## 2. 製作と塗装について

実機は零戦11型ないし21型から改修(実際はかなりの部分を新造していたようですが)されていることから、零戦21型のキットをベースに製作。零戦にはない主・補助フロートはアライ(旧LS)の1/75キットの内側にメンソレータムを塗って離型処理しておき、木工エポキシパテを充填して硬化させたものをベースに寸法を合わせていきました(補助フロートは左右必要なので型取り複製)。ムクなので支柱には金属線を通してあります。主脚収納部を塞ぎ、カウリング下部・ロールバー・垂直尾翼周り等の細かな差異を再現しました。キャノピー天面の四角い枠の一部は二式水戦には無いので、薄め液を綿棒に付けて拭き取りました。

立体定規となった旧LSのキットに敬意を払い、箱にあしらわれている901航空隊の塗装を再現することにしました。ラッカー系の明灰色(中島系)とアクリジョン日本海軍機色セットの暗緑色(中島系)にて筆塗りにより上下塗分け、機体内部もアクリジョンの専用色です。マーキングはMDプリンタをオーバーホールに出した為、機番以外はモデラーズのカラードカール(赤色)を使用。墨入れは潮と錆に見えるよう、タミヤのウエザリングカラーを混色して使用しました。

単フロート機でそのままでは水平に置けないので、キット付属の飾り台をフロートの形状に合わせてくり抜き、青系の調合色で塗装した後表面に木工用ボンドを塗布して水面の感じを表現しています。

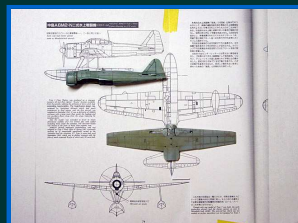


前方より

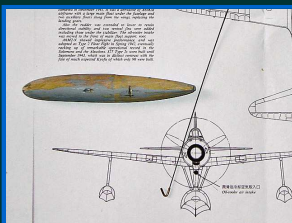


後方より

### 3. 途中画像



主脚収納部を塞ぎ、21型と微妙に異なる尾翼周り等の形状を変更。



アリのキット内部にエポキシパテを詰め、硬化後に切り刻んでフロートを調達。



フロートの位置を決定。支柱には金属線を通して補強している。



付属の飾り台の一部をくり抜き、主フロートがはまるようにした。